

令和8年2月25日



岩倉市議会

議長 須藤 智子 様

会派名 創政会

代表者名 梅村 均

第20回全国市議会議長会研究フォーラム
—地方議員のなり手不足問題の解決に向けて—
報告書

このことについて、下記のとおり参加しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和7年8月27日（水）～28日（木）
- 2 研修先 札幌文化芸術劇場 hitaru 及び札幌パークホテル3階「エメラルド」（中継会場）
- 3 出席人数及び氏名

4名	梅村 均	片岡健一郎
	関戸郁文	伊藤隆信

- 4 復命事項

別紙のとおり

第20回全国市議会議長会研究フォーラム報告書（創政会）

作成者：梅村 均

【開催日程】令和7（2025）年8月27日（水）・28日（木）

【場 所】札幌文化芸術劇場 hitaru 及び札幌パークホテル3階エメラルド

【参加者】梅村均 関戸郁文 片岡健一郎 伊藤隆信

【主な内容】

基調講演：演題「主権を預かる誇りと責任」

講師：伊吹文明 元衆議院議長

- ・地方議員は住民の主権を預かる重要な役割を担う。
- ・行政との適切な関係を維持し、議会の役割を果たすことが重要
- ・地方議員は、住民の代表として決定権や責任を担っている。
- ・市長や行政との関係は、単に予算を通すだけでなく、住民利益を守るために、行政提案をチェックし、必要な修正や提言を行い、時には対立する場面でも役割を果たすことが重要である。
- ・議員としても活動や地方議会の役割を、支持者や住民に正しく理解してもらう必要がある。
- ・単なる人気取りの活動ではなく、住民自治の本質について語り、支持者とも丁寧に議論して理解を深めることが必要である。
- ・議員の待遇と現状として、議員活動が経済的に厳しい現実もあるかもしれない。
- ・若者が議員になることへの心理的・経済的障壁もありそうだ。
- ・地方自治とは、単なる行政サービスの提供ではなく、市民が自らの課題を決め、それに責任を持つ仕組みである。議員は民主主義の最前線でその仕組みを働かせる役割がある。その誇りと責任を自覚しながら行動しなければならない。
- ・地方議会に対する市民の信頼や関心を高めていく必要がある。

など

パネルディスカッション1：

テーマ「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

コーディネーター 辻 陽 近畿大学法学部教授

パネリスト 牧原 出 東京大学教授

白石洋一 読売新聞東京本社政治部次長

山下節子 山口県宇部市議会議長

長内直也 北海道札幌市議会議長

- ・ なり手不足の主な原因：①議員報酬が低く、生活が不安定②議員活動と仕事・家庭の両立が難しい③議員に対する社会的評価の低下④人口減少・地域社会の変化⑤選挙にかかる負担（心理的・経済的要素）⑥議会制度や環境が現代社会に合っていない。
- ・ 議員という仕事が現代の働き方に合っていない構造問題があるのではないか。
- ・ 経済的な不安定さがある
- ・ 職業としても魅力不足である。無投票当選の増加、定数割れが見られる。
- ・ 若者、女性議員の不足がある。平均年齢も上昇しているのでは。
- ・ 議論された解決策の概要：①議員報酬の見直し②議会のオンライン化③育児・介護との両立支援④議会の魅力発信⑤若者・女性の参加促進

パネルディスカッション 2 :

テーマ「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーター 牧瀬 稔 関東学院大学法学部地域創生学科教授
 事例報告者 今井康善 長野県岡谷市議会前議長
 平神純子 鹿児島県南さつま市議会議員
 中野 進 石川県白山市議会議員

- ① 議員の学校や研修で候補者を育てる：議員養成講座の開設など市民向けに「議員とは何か」「議会の仕組み」を学ぶ講座の開催し将来の立候補者候補を育成する。政治に興味のない市民にも検討を促す。
- ② 模擬議会・主権者教育（若者対策）の実施：高校や大学で模擬議会を開催し、若者が議員役になり議論を体験する。又は議員が学校で講演をするなど。若者に議員の役割を理解してもらう。
- ③ 女性議員を増やすための支援：ハラスメント対策や環境を整備する。ハラスメント防止制度や相談窓口の設置、出産や育児中の議員活動を制度化する。女性議員との交流会の開催、立候補ノウハウの提供なども
- ④ 報酬・待遇の改善：議員報酬の見直しで報酬の引き上げ、議会事務局のサポート強化、専門スタッフの配置がある。
- ⑤ 働きながら議員ができる制度改革：議会の開催方法を見直し、夜間議会や週末開催の導入、オンライン議会など。会社員でも議員になれるように。
- ⑥ 議会の魅力を伝える広報活動：議会広報の強化で、SNSの活用、議会活動の公開、市民説明会の開催などで議員の仕事が見えない問題を解消する。

など

【所感】

片岡健一郎：

今年札幌で開催された第20回全国市議会議長会研究フォーラムのテーマは、「地方議員のなり手不足問題の解決に向けて」でした。全国的に議員の無投票当選や候補者不足が拡大するなか、この課題に真正面から向き合う姿勢が示されたことは重要です。フォーラムでは基調講演やパネルディスカッションを通じ、多様な人材の参画促進や議会活動の魅力づくりなど、具体的な方策が議論されました。こうしたテーマ設定は、地方自治の根幹である議会機能の強化をめざす真摯な取り組みと言えます。議員不足は単なる数の問題ではなく、市民と行政をつなぐ制度そのものの持続性に関わる課題であり、議論の深化と実践的な解決策の展開が今後ますます求められると感じました。岩倉市議会としても多様な人材参画を目的とし、主権者教育を継続的に実施していく事が重要であると改めて感じました。

梅村 均：

今回の研究フォーラムを通して、一番印象に残り、共感できたメッセージは「議員はもっと勉強しないとイケない」でした。パネリストの一人の議員から発せられた言葉であります。自身の議会の実態からなのかはわかりませんが、きっと議員一人ひとりがもっともっと勉強（調査・分析など）もして、議案審査や提案など、議員・議会活動に臨む余地があるとの思いと受け止めましたが、共感するところです。また、「議員のなり手不足問題」を解決するいくつかの考えをお聞きすることができましたが、社会は変わりつつあり、報酬などの待遇改善、議会の開催時間の工夫などよりも前に、今は行政への市民参加や公開が促進されている現状を踏まえなければならないと思います。行政と市民をつなぐ議会の役割も変わりつつあると思います。その社会背景の変化も捉え、議会の役割は何か、もしかすると「なり手がいない」ということは、社会にとって議員は必要ないのではないかというところから思考を出発しなければならないのかもしれないかもしれません。そうしたことも念頭に置きながら、議会の役割・必要性やその魅力を考え、住民利益の向上につながるよう、主権者教育や広報の充実には取り組んでいきたいと感じた研究となりました。

